

第3次伊勢崎市総合計画策定のための地区別市政懇談会 議事要旨

日時	令和6年4月10日（水）18時00分～18時45分
場所	人材派遣ワイズコーポレーション 境総合文化センター
参加者数	122人
市側出席者	臂市長、藤原副市長、下城副市長、三好教育長、小林病院事業管理者 星野企画部長、丸橋財政部長、細井市民部長、深澤環境部長、 高柳健康推進部長、石橋福祉子ども部長、清水長寿社会部長、 定形産業経済部長、田中農政部長、大橋建設部長、山田都市計画部長、 高木公営事業部長、柳澤上下水道局長、矢内消防長、小此木経営企画部長、 大森会計管理者、櫻井議会事務局長、下城監査委員事務局長、 小林教育部長、大和総務部副部長、内野安心安全課長
次第	① 開会 ② 出席者紹介 ・特別職の紹介 ・部長職の紹介 ③ 市長あいさつ・説明 ※スライドを使用しての説明 ・第3次伊勢崎市総合計画の策定について - ア 策定スケジュール - イ 市民参画の経緯 ・市民アンケート結果のトピックス ・市長懇話会の結果 など - ウ 長期ビジョン（基本構想）（案） - エ 地区別計画のイメージ ④ まちづくりへの提案、意見の聴き取り ⑤ 閉会

① 開会
（省略）

② 出席者紹介
（省略）

③ 市長あいさつ・説明
（省略）

④ まちづくりへの提案、意見の聴き取り（要旨）

◆ごみの分別ポスターについて

【提案、意見】

現在、市が発行しているごみ出しカレンダーは、6ヶ国語（スペイン語、タガログ語、ベトナム語、ポルトガル語、英語、中国語）で作成されている。

しかし、境地区にはイスラム教のモスクがあり、バングラデシュやパキスタン等のイスラム圏の国々の方が多く住んでいる。イスラム圏の方がスムーズにごみ出しができるよう、イスラム圏の方が理解できる言語のごみ出しカレンダーを作成してほしい。

【回答】（環境部長）

今後、イスラム圏の方が理解できる言語に対応したごみ出しカレンダーを作成していきたい。

◆世界遺産田島弥平旧宅の活用について

【提案、意見】

伊勢崎市には、世界遺産である田島弥平旧宅があるので、伊勢崎市全体で盛り上げるようなイベントを実施して欲しい。

長期にわたって継続的に実施し、境地区の地元団体だけでなく伊勢崎市全体が、伊勢崎市は世界遺産を持っているという意識を持てるような取組をお願いしたい。

【回答】市長

令和6年度は世界遺産登録10周年であり、県全体の遺産群で合同の取組を実施していく予定だが、伊勢崎市としても、世界遺産田島弥平旧宅を多くの皆さんに知っていただき、活用していただけるようなイベントを予定している。子供達への教育を含め、活用については、第3次伊勢崎市総合計画にはしっかりと位置付けていく。市民の皆さんからご意見を頂いて、第3次伊勢崎市総合計画策定へ活かしたい。

【回答】教育長

世界遺産田島弥平旧宅は伊勢崎市民にとっての誇りであり、調査研究が現在も進行中である。様々な新しい発見がある中で、学術的な価値がさらに高まっている。保存を進めるとともに、特に次世代に向け子供達が活用できるよう、今年度の10周年記念事業を実施すると共に、市内の小学生全員を対象に、世界遺産及び市内の文化遺産を巡るバスツアーの研修を行いたいと考えている。

世界遺産田島弥平旧宅が持続可能な遺産として、多くの市民の誇りとなるよう、次世代に向け、子供達への教育に力を入れていきたい。

◆高齢者の活躍、要支援者の防災について

【提案、意見】

境地区は高齢化率が非常に高く、3割以上である。また、10以上の行政区において高齢化率が4割を超えている。

昨年4月に、「伊勢崎市高齢者が生き生きと活躍できる社会の実現の推進に関する条例」

が制定され、期待している。

第3次伊勢崎市総合計画では、高齢者が生き生きとするだけでなく、活躍できるような事業をどのように組み立てていくのが重要だと思う。例えば、老人クラブ等の活動においては、解散するといった話も聞き、将来が心配されるような状況である。本当の意味で、高齢者が活躍できるような施策について、どのようにアクションプランに組み込むか検討を深めていただきたい。

また先日、能登半島地震が発生したが、全国的に災害時の対応が十分でない状況であると思う。特に要支援者については、民生委員等が名簿を持っているが、個別の避難計画について、具体的な計画があまり記載されていない。台風19号の際に、境地区では1,000名以上が避難したが、個別避難計画がないために、名簿に基づいて避難された方はほとんどいなかった。区長や民生委員は、要支援者の名簿を持っていながらも、どう対応していいかわからず戸惑うという実態があったと思う。

平成22年に台風19号の検証が行われた際には、その検証結果の中で要支援者に対する個別避難計画や、支援者が参加する防災訓練の必要性が記載されていたと思う。

第3次伊勢崎市総合計画のアクションプランの中では、個別避難計画や、災害が発生した際の支援の在り方などを具体的に策定してほしい。

【回答】市長

高齢者の活躍については、「伊勢崎市高齢者が生き生きと活躍できる社会の実現の推進に関する条例」に基づき、今後も各担当課が様々な取組を実施していくので、アクションプランにもしっかり位置付けられる。

防災については、地区別懇談会を実施している大きな意味である。境地区は、ハザードマップの浸水想定が厳しい区域が多い。第3次伊勢崎市総合計画の地区別計画の中で、防災については重点的に取り上げる必要がある。令和6年度では、個別避難計画を含め、予算の中でも防災については重要なものとして位置付けて取り組みたいと考えている。災害時の情報提供についても、いせさきFMを活用するなど様々な取組をしていく。

明日には、区長会のみなさまへの委嘱状交付式があるが、その中で、防災について研修会を行わせていただく。

実際に災害が起こった時に大丈夫なのか、という想定で第3次伊勢崎市総合計画の中に位置付けなければならない。しかし、行政でできる範囲は限られており、自助・共助が非常に大事になってくる。各地区の皆さんに協力していただきながら取り組んでいきたい。

6 閉会

(省略)